

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	マナープロトコールⅠ		
必修選択	必修	(学則表記)	マナープロトコールⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	リゾート観光ホテルエアライン科	2	30
使用教材	マナー・プロトコールの基礎知識 マナー・プロトコール検定2級・3級問題集		出版社	日本マナー・プロトコール協会	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	観光業界で働く上で必要なマナーやプロトコールを習得する				
到達目標	マナー・プロトコール検定3級合格				
評価基準	テスト50% 小テスト30% 授業態度20%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	マナー・プロトコール検定3級				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	瀧田 千春	実務経験		○	
実務内容	一般企業にて勤務歴あり				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、ねらいと到達目標について、マナー・プロトコール検定の概要、マナーとは
2	マナーの歴史と意味	各国のマナーの成りたちと特徴
3	好感度を高めるポイント	第一印象、挨拶、表情・笑顔、立ち居振る舞い
4	言葉遣いと話し方	言葉遣い、聴き方・話し方のポイント
5	自己紹介	歩き方、姿勢、自己紹介
6	プロトコール①	プロトコールの原則、異文化を知る
7	プロトコール②	席次、国旗
8	手紙のマナー	手紙のマナー、手紙を書いてみよう

9	ビジネスマナー	会社とは、社会人意識、名刺交換
10	電話対応とクレーム対応	電話対応、トラブル対応
11	来客対応①	来客対応
12	来客対応②	茶菓接待
13	ビジネス文書	各ビジネス文書のマナー
14	前期テスト/喜ばれる贈答	テスト実施、贈り物のマナー
15	まとめと総括	テスト問題解説、質疑応答、前期総復習

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	マナープロトコールⅡ		
必修選択	必修	(学則表記)	マナープロトコールⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	リゾート観光ホテルエアライン科	2	30
使用教材	マナー・プロトコールの基礎知識 マナー・プロトコール検定2級・3級問題集		出版社	日本マナー・プロトコール協会	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	観光業界で働く上で必要なマナーやプロトコールを習得する				
到達目標	マナー・プロトコール検定3級合格				
評価基準	検定試験30% テスト30% 小テスト20% 授業態度20%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	マナー・プロトコール検定3級				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	瀧田 千春	実務経験		○	
実務内容	一般企業にて勤務歴あり				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	和食のマナー	食事作法の基本、和食のマナー、和室の作法
2	洋食のテーブルマナー	西洋料理のマナー、各国のマナー
3	「冠」のしきたり	冠婚葬祭とは、日本の主な通過儀礼
4	「婚」のしきたり	結婚の変遷とマナー、礼装の基準
5	「葬」のしきたり	葬送儀礼のしきたりとマナー
6	「祭」のしきたり	日本の年中行事
7	模擬試験①	模擬試験実施
8	模擬試験②	模擬試験実施

9	模擬試験③	模擬試験実施
10	模擬試験④	模擬試験実施
11	模擬試験⑤	模擬試験実施
12	模擬試験⑥	模擬試験実施
13	模擬試験⑦	模擬試験実施
14	後期テスト	テスト実施
15	まとめと総括	テスト問題解説、質疑応答、検定直前総復習

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	観光実践Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	観光実践Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	リゾート観光ホテルエアライン科	2	30
使用教材	琉球史		出版社	東洋企画印刷	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	沖縄の歴史文化や自然遺産を理解し、観光知識として役立てる				
到達目標	沖縄の歴史文化や自然遺産に対して関心を持ち、自ら進んで学ぶ姿勢を醸成できている。				
評価基準	テスト：50% レポート20% 小テスト：30%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>・成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	幸喜 若菜	実務経験		○	
実務内容	航空会社CAとして勤務経験。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	・オリエンテーション	・なぜ琉球史を学ぶのか、イントロダクション
2	・貝塚文化	・貝塚はいったい何を語っているのか学ぶ。
3	・グスク時代	・グスクはどのようにしてつくられたのか学ぶ。
4	・群雄割拠の時代	・若き国王のことをなぜ若太陽と呼ぶのか学ぶ。
5	・第一尚氏王統	・琉球王国はどのようにして誕生したのか学ぶ。
6	・第二尚氏王統	・中央集権体制はどのように確立されたのか学ぶ。
7	・琉球の大交易時代	・レキオの交易範囲はどこまで広がっていたのか学ぶ。
8	・宮古・八重山と奄美の状況	・アカハチ・ホンガワラは反逆者だったのか学ぶ。

9	・島津の琉球侵略	・島津氏はなぜ琉球を侵略したのか学ぶ。
10	・近世琉球の確立	・薩摩支配下で琉球はどのように変わったのか学ぶ・小テストの実施。
11	・疲弊する農村	・農民はどのような暮らしをしていたのか学ぶ。
12	・島津侵略後の宮古・八重山	・薩摩支配下で宮古・八重山の統治はどう変わったのか学ぶ。
13	・近世琉球の産業と文化	・琉球文化にはどのような特徴があるのか学ぶ。
14	・新しい時代の序曲	・ペリーはなぜ琉球にやってきたのか学ぶ。
15	・欧米船の来航	・欧米船は何を求めて琉球にやってきたのか学ぶ。

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	観光実践Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	観光実践Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	リゾート観光ホテルエアライン科	2	30
使用教材	教員作成授業用資料		出版社		

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	沖縄の歴史文化や自然遺産を理解し、観光知識として役立てる				
到達目標	沖縄の歴史文化や自然遺産に対して関心を持ち、自ら進んで学ぶ姿勢を醸成できている。				
評価基準	テスト：50% レポート20% 小テスト：30%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>・成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	幸喜 若菜	実務経験		○	
実務内容	航空会社CAとして勤務経験。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	・オリエンテーション	授業の流れと評価基準の説明
2	・新しい時代の序曲	・ペリーはなぜ琉球にやってきたのか学ぶ。
3	・廃琉置県	・琉球王国はどのように解体されたのか学ぶ。
4	・旧慣温存と沖縄県政	・旧慣温存と沖縄県政
5	・沖縄における民権運動	・沖縄の民衆はどのように権利を獲得していったのか学ぶ。
6	・旧慣の改革と特別制度の撤廃	・オキナワ人はどのようにして日本人になったのか学ぶ。
7	・ソテツ地獄の沖縄	・ソテツ地獄の沖縄
8	・十五年戦争への道	・十五年戦争はどのようにして始まったのか学ぶ。

9	・日中戦争と第二次世界大戦	・日本はなぜ戦争を拡大させたのか学ぶ。
10	・アジア太平洋戦争	・日本はなぜアメリカと戦争をはじめたのか学ぶ
11	・鉄の暴風が吹き荒れた沖縄	・鉄の暴風が吹き荒れた沖縄
12	ツアー企画書作成②	・沖縄戦はなぜ起こったのか学ぶ。
13	・沖縄戦から見えるもの ・米軍基地と沖縄	・沖縄戦から何を学ぶか考える。 ・戦後の焼け跡から沖縄はどのように立ち上がったのか学ぶ。
14	・土地の強制収用と沖縄住民の抵抗 ・祖国復帰運動と沖縄返還	・島ぐるみ闘争はなぜ起こったのか学ぶ。 ・沖縄住民は、なぜ日本復帰を望んだのか学ぶ。
15	・新生沖縄県のあゆみ ・復帰後の沖縄県政と基地問題	・復帰で沖縄の何が変わったのか学ぶ・テストの実施。 ・本土並みの政策は実現したのか、なぜ沖縄に基地が集中しているのか学ぶ。

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	コミュニケーション実習Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	コミュニケーション実習Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	リゾート観光ホテルエアライン科	1	30
使用教材	コミュニケーション技法		出版社	ウイネット	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	人前での話し方。良好な人間関係の作り方。(コミュニケーション能力)を学ぶ。				
到達目標	人前で落ち着いて自分の考えが話せる。人の話をよく聞き発言できる。				
評価基準	制作物：30% 授業態度：20% 発表(やる気・声の大きさ)：30% 協調性：20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が総時間数の3分の2以上ある者。</li> <li>・成績評価が2以上の者。</li> </ul>				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	幸喜 若菜	実務経験		○	
実務内容	航空会社CAとして勤務経験。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の目的、目標。発声練習・自己紹介
2	人前で話す事に慣れる	発声練習・自己紹介・ジェスチャーゲーム
3	人前で話す事に慣れる	発声練習・自己紹介・教科書記入
4	人前で話す事に慣れる	発声練習・自己紹介・教科書撮影・敬語の基本
5	人前で話す事に慣れる	発声練習・自己紹介・教科書プレビュー、振り返り
6	人前での話し方を意識する	発声練習・夢と動機発表、教科書
7	人前での話し方を意識する	発声練習・GWの出来事制作発表・ジェスチャーゲーム
8	人前での話し方を意識する	発表練習強化・1ヶ月経って制作発表

9	人前での話し方を意識する	発声練習強化・決まった時間で自己紹介作成発表
10	腹式呼吸と活舌のレベルアップ	発声練習強化・決まった時間で自己紹介暗記発表
11	腹式呼吸と活舌のレベルアップ	発声練習強化・目的地までの道案内・面接の話
12	人前で暗記して話す	発声練習強化・教科書、個人で記入グループで答え合わせ発表
13	誰にでも分かる話し方をする	発表練習・教科書記入・全員参加でゲーム
14	挨拶の効用	発声練習・挨拶、マナー、エチケットについてを話し合い発表
15	挨拶の言葉遣い	発声練習・教科書記入、答え合わせ

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	コミュニケーション実習Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	コミュニケーション実習Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	リゾート観光ホテルエアライン科	1	30
使用教材	コミュニケーション技法		出版社	ウイネット	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	人前での話し方。良好な人間関係の作り方。(コミュニケーション能力)を学ぶ。				
到達目標	人前で落ち着いて自分の考えが話せる。人の話をよく聞き発言できる。				
評価基準	制作物：30% 授業態度：20% 発表(やる気・声の大きさ)：30% 協調性：20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が総時間数の3分の2以上ある者。</li> <li>・成績評価が2以上の者。</li> </ul>				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	幸喜 若菜	実務経験		○	
実務内容	航空会社CAとして勤務経験。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	効果的に話す	発声練習・5W2Hを制作発表
3	効果的に話す	発声練習・話にナンバーリング作成発表
5	効果的に話す	発声練習・主第一話題—主張作成発表
7	効果的に話す	発声練習・AIDMAを制作発表
9	効果的に話す	発声練習・暗記して話す撮影、プレビュー
11	集団でのコミュニケーション	発声練習・地震に役立つ物
13	感情をコントロール	発声練習・怒り等の感情を知る・ゲーム
15	聞く事の重要性	発声練習・本読み

17	情報収集・プレゼンテーション	発声練習・対話紹介、手引き
19	集団でのコミュニケーション	発声練習・結婚披露宴の席順手引き
21	集団でのコミュニケーション	発声練習・買い物案内図手引き
23	聞き方全般の意識・技術向上	発声練習・気持ちを受け止める
25	受容する事を体感	発声練習・価値観を受け止める
27	話を聞く・話題を振る・空気を読む	発声練習・フリーコミュニケーション
29	1年のまとめ	発声練習・1年を振り返って制作発表

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	未来デザインプログラムⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	未来デザインプログラムⅠ		
開講					
年次	1年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	単位数	1
使用教材	7つの習慣Ⅰテキスト、夢のスケッチブック		出版社		

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」を体現する為の授業として、7つの習慣を体系的に学ぶことで、社会人／職業人としてあるべき人格を高め、主体性を発揮して物事にチャレンジできる人材に成長する				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自立」と「相互依存」のためにはどんな考え方や行動習慣が必要なのかを理解する</li> <li>・他者へのリーダーシップを醸成し、主体性を発揮できる様になる</li> </ul>				
評価基準	小テスト／レポート：20% 授業態度：40% 提出物：40%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>・成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格	なし				
関連科目	キャリア教育				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	諸見里 真澄	実務経験	○		
実務内容	総合運動施設にてプール業務全般・体操指導歴3年				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	専門学校へようこそ！	未来デザインプログラム授業への価値付けを行い、日記を書くことの意味や今日から実行できる機会を考える
2	自分制限パラダイムを解除しよう！	自分制限パラダイムの概念を知り、自分制限パラダイムを取り払った状態で行動が継続できる様に考える
3	自信貯金箱	自信貯金箱の概念を理解すると共に、自分自身への約束を守る大切さを学ぶ
4	刺激と反応	刺激と反応の考え方を理解し、どの様な状況でも一時停止ボタンを使い主体的に判断・行動していくことの大切さを考える
5	言霊～ことだま～	言葉の持つ力や自分の言動が、描く未来や成功に繋がっていくことを学ぶ
6	影響の輪	集中すべき事、集中すべきでない事を明確にし、今自分がやるべき事、考えるべき事を優先順位を考えながら整理していく大切さを学ぶ
7	選んだ道と選ばなかった道	自分の選択は自分の気持ち次第であり、自分が決めたことに対して、最後までやり遂げる大切さを学ぶ

8	割れた窓の理論	規則を守る大切さ、重要性を理解する
9	人生のビジョン	10年後のなりたい自分を考えることにより、入学時に考えた「卒業時の姿」をより具体的に考える
10	自分の価値観を知る	なりたい姿を鮮明にすることの大切さを知り、自分の価値観を深掘りすることで、将来のなりたい姿を具体的にイメージできるプロセスを学ぶ
11	大切なことは？	なりたい自分になるために優先すべき「大切なこと」は、夢の実現や目標達成に直接関係することだけではなく、間接的に必要なこともあることを学ぶ
12	一番大切なことを優先する	スケジュールの立て方を学ぶ。自らが決意したことを実際の行動に移すことの大切さを学ぶ
13	時間管理のマトリクス	第2領域（緊急性はないが重要なこと）を優先したスケジュール管理について学ぶ
14	私的成功の振り返り	主に私的成功の習慣（前期授業内容）の復習（知識確認）
15	リーダーシップを発揮する	リーダーシップを発揮するためには、「主体性」が問われることを学ぶ

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	未来デザインプログラムⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	未来デザインプログラムⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	15
使用教材	7つの習慣」テキスト、夢のスケッチブック		出版社		

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」を体現する為の授業として、7つの習慣を体系的に学ぶことで、社会人／職業人としてあるべき人格を高め、主体性を発揮して物事にチャレンジできる人材に成長する				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自立」と「相互依存」のためにはどんな考え方や行動習慣が必要なのかを理解する</li> <li>・他者へのリーダーシップを醸成し、主体性を発揮できる様になる</li> </ul>				
評価基準	小テスト／レポート：20% 授業態度：40% 提出物：40%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>・成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格	なし				
関連科目	キャリア教育				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	諸見里 真澄	実務経験		○	
実務内容	総合運動施設にてプール業務全般・体操指導歴3年				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	信頼貯金箱	信頼貯金箱の概念を理解し、周囲から信頼されるための考え方を学ぶ
2	Win-Winを考える	お互いがハッピーになれる方法を考えることの大切さを学ぶ
3	豊かさマインド	人を思いやることは自分自身のためでもあることを学ぶ
4	理解してから理解される	人の話の聴き方を考え、理解してから理解するという考え方があるということを学ぶ
5	相乗効果を発揮する	多様性や人と違いがあることに価値があることを学ぶ
6	自分を磨く	自分を磨くことの大切さ、学び続けることの大切さを考える
7	未来は大きく変えられる	人生は選択の連続あり、未来は自分の選択次第であることを学ぶ

8	人生ビジョンを見直そう	自らが立てたライフプランを現実的な視点から見つめ、必要な軌道修正を考える
9	未来マップを作ろう①	未来の自分の姿（仕事、家庭、趣味など）を写真や絵で表現するマップを作成し、将来の夢を実現するモチベーションを高めていく
10	未来マップを作ろう②	未来マップの発表を通して、自身の夢を実現する決意をする
11	感謝の心	人間関係構築/向上の基本である感謝の心について考える
12	7つの習慣授業の復習	7つの習慣の関連性を学ぶとともに、私的成功が公的成功に先立つことを理解する
13	未来デザインプログラムの振り返り	7つの習慣など、未来デザインプログラム授業で学んだことの復習（知識確認）
14	2年生に向けて①	1年後の自分の姿を鮮明にし、次年度への目標設定を考える
15	2年生に向けて②	1年後の自分の姿を鮮明にし、次年度への目標設定を考える

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	アウトドア実践Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	アウトドア実践Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光ホテルエアライン科	2	30
使用教材	教員作成授業用資料		出版社		

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	リゾート地でのヨガやピラティスを体験することで、沖縄県の気候を活かしたアクティビティにおける観光サービスの理解を深め、自分自身が体験した内容を伝えることができるようになることを目的とする。				
到達目標	リゾートヨガ・ピラティスを指示通りに実践することができる				
評価基準	授業態度40%、小テスト40%、提出物20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>・成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格	総合旅行業務取扱管理者資格				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	新里 美紀	実務経験	○		
実務内容	県内でヨガインストラクターとして実務経験。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	クラス概要、到達目標について、沖縄県のアクティビティの現状について
2	ヨガとピラティスの違い	ヨガとピラティスの違いを理解する
3	アクティビティ実践①	沖縄県におけるヨガ・ピラティスの需要について知る
4	アクティビティ実践②	沖縄県で提供されているヨガ・ピラティスについて知る
5	トレーニング実践①	健康の3要素を知る
6	トレーニング実践②	トレーニングの効果について知る

7	トレーニング実践③	調整系エクササイズを知る
8	ヨガの歴史や概要	ヨガの歴史や概要を知る
9	ヨガの種類	ヨガの種類を知る
10	ヨガ体験①	ヨガの実践①
11	ヨガ体験②	ヨガの実践②
12	ヨガ体験③	ヨガの実践③
13	ヨガ体験④	ヨガの実践④
14	ヨガ体験⑤	ヨガの実践⑤
15	ヨガ体験⑥	ヨガの実践⑥・前期のまとめを行う。

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	アウトドア実践Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	アウトドア実践Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光ホテルエアライン科	2	30
使用教材	教員作成授業用資料		出版社		

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	リゾート地でのヨガやピラティスを体験することで、沖縄県の気候を活かしたアクティビティにおける観光サービスの理解を深め、自分自身が体験した内容を伝えることができるようになることを目的とする。				
到達目標	リゾートヨガ・ピラティスを指示通りに実践することができる				
評価基準	授業態度40%、小テスト40%、提出物20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>・成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	新里 美紀	実務経験	○		
実務内容	県内でヨガインストラクターとして実務経験。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	前期総まとめ	前期の振り返りを行う
2	前期のおさらい	前期のおさらい
3	トレーニング実践④	ダイエットについて知る
4	トレーニング実践⑤	水分補給について知る
5	トレーニング実践⑥	コアコンディショニングについて知る
6	ピラティスの歴史や概要	ピラティスの歴史や概要を知る

7	ピラティスの種類	ピラティスの種類を知る
8	ピラティス体験①	ピラティスの実践①
9	ピラティス体験②	ピラティスの実践②
10	ピラティス体験③	ピラティスの実践③
11	ピラティス体験④	ピラティスの実践④
12	ピラティス体験⑤	ピラティスの実践⑤
13	ヨガ・ピラティス実践①	ヨガとピラティスの違いを体感する
14	ヨガ・ピラティス実践②	基礎的なヨガを提供できるように実践する①
15	ヨガ・ピラティス実践③	基礎的なヨガを提供できるように実践する②

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	救急処置法		
必修選択	選択	(学則表記)	救急処置法		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	リゾート観光ホテルエアライン科	2	30
使用教材	教員作成授業用資料		出版社		

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	アウトドア・マリンスポーツや日常生活にかかわる外傷・障害に対する応急処置の方法を学ぶ。呼吸、意識、脈拍の確認方法を学び、心臓マッサージや人工呼吸などの心肺蘇生術を習得する。				
到達目標	救急処置の基礎を理解する EFRコース合格				
評価基準	テスト/レポート：60% 授業態度：20% 提出物：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	国際救急法(EFR)				
関連科目	ダイビング実習Ⅰ・Ⅱ（ダイビング・アウトドア観光コース）				
備考	※評価基準は学外実習規定に準ずる 原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	宮川 友宏（株式会社マレアクリエイト）	実務経験	○		
実務内容	ダイビングショップ・インストラクターとして20年間の勤務 PADIオープンウォーター,PADIスクーパインストラクター,潜水士免許,PADIコースディレクター取得				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	自己紹介・救急法を学ぶべき理由・国際救急法とは・コースの構成紹介
2	救助法基本知識①	救助とは 救命の連鎖・仕組みについて
3	救急法基本知識②	救助法（DVD視聴） 生命にかかわる問題について
4	救急法基本知識③	一次ケアの定義・CPRの仕組みについて 救急ケアの順序について
5	救急法基本知識④	1次ケア 確認テスト 2次ケア DVD視聴
6	救急法基本知識⑤	2次ケア 確認テスト 知識のまとめ
7	スキル開発①	1次ケア 現場の評価・バリアの使用
8	スキル開発②	1次ケア 気道確保・正常な呼吸法

各回の展開		
回数	単元	内容
9	スキル開発③	CPR・心肺蘇生法・胸骨圧迫・レスキュー呼吸
10	スキル開発④	AEDの使用方法・出血管理
11	スキル開発⑤	精髓損傷・気道閉塞
12	スキル開発⑤	1次ケア 実技演習
13	スキル開発⑤	2次ケア 病気・けがの評価
14	スキル開発⑤	2次ケア 骨折・緊急時のリファレンス
15	まとめ	筆記テスト 答合わせと復習

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	マリン・フォレストガイドⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	マリン・フォレストガイドⅠ		
		開講	単位数	時間数	
年次	1年	学科	リゾート観光ホテルエアライン科	2	30
使用教材	教員作成授業用資料		出版社		

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	自然体験活動を通じて計画力、コミュニケーション能力を身につける				
到達目標					
評価基準					
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>・成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	宮川 友宏 (株式会社マレアクリエイト)	実務経験	○		
実務内容	ダイビングショップ・インストラクターとして20年間の勤務 PADIオープンウォーター、PADIスクーバインストラクター、潜水士免許、PADIコースディレクター取得				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	体験学習と環境教育	体験学習にとっての自然、環境、社会、歴史について
2	聴く力のワークショップ	地域の自然や歴史を知る人へのインタビュー
3	環境・食育体験学習	海での漁師体験プログラムを体験する
4	漁業の歴史	漁業の種類と歴史、沖縄の海で見られる魚と獲れる魚を調べる
5	環境問題のワークショップ	身近な自然環境と環境問題について調べ、発表する
6	サンゴ礁の保全活動	サンゴ礁の生態と重要性について知り、サンゴの植え付け・苗作りを体験する
7	伝える力のワークショップ	インタープリテーションとは何か？大切にしているモノ・コトを伝える
8	参加者理解	参加者理解とコミュニケーション、相性診断のワークショップ

9	沖縄の自然と歴史	沖縄の自然と歴史、沖縄の森林で見られる熱帯性植物と固有生物を調べる
10	陸域での体験技術実習	五感を使ったインタープリテーションのアクティビティを経験する
11	野外宿泊と災害対策	宿泊を伴う体験学習と災害対策としてのキャンプについて
12	野外宿泊体験実習	基本的なロープワーク、テントとタープの設営、焚火の手順
13	チームビルディング	ファシリテーターとしてのチームビルディングと振り返りの手法
14	プログラムデザイン	ファシリテーターとしての課題解決アクティビティとプログラムデザイン
15	テスト	筆記テストの実施と振り返り。まとめ

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	インバウンド接客英会話Ⅰ			
必修選択	選択	(学則表記)	インバウンド接客英会話Ⅰ			
開講					単位数	時間数
年次	1年	学科	リゾート観光ホテルエアライン科	2	30	
使用教材	観光のための初級英単語と用例 みんなの外国語検定DVD		出版社	みんなの外国語検協会		

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	基本的なコミュニケーション、実際のホテルやレストランやお店などで使うような英会話力を習得する				
到達目標	日常英会話、ホテル等で接客に必要な英会話話ができるようになる。 みんなの外国語検定ブロンズ以上合格				
評価基準	授業態度40% 検定合格30% 小テスト30%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>・成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格	みんなの外国語検定（英語）				
関連科目	TOEICテスト・観光英会話				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	藤田 隆子	実務経験		○	
実務内容	国際交流機関にて10年勤務経験あり。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション ブロンズ	授業のねらい・到達目標・成績評価について説明 DVDで聞き取り、会話のニュアンスや文法を学ぶ
2	ブロンズ	DVDで聞き取り、会話のニュアンスや文法を学ぶ
3	シルバー	DVDで聞き取り、会話のニュアンスや文法を学ぶ
4	シルバー	DVDで聞き取り、会話のニュアンスや文法を学ぶ
5	ゴールド	DVDで聞き取り、会話のニュアンスや文法を学ぶ・小テストの実施
6	ゴールド	DVDで聞き取り、会話のニュアンスや文法を学ぶ
7	カフェ	DVDで聞き取り、会話のニュアンスや文法を学ぶ
8	カフェ	DVDで聞き取り、会話のニュアンスや文法を学ぶ

9	寿司	D V Dで聞き取り、会話のニュアンスや文法を学ぶ
10	寿司	D V Dで聞き取り、会話のニュアンスや文法を学ぶ・小テストの実施
11	牛丼	D V Dで聞き取り、会話のニュアンスや文法を学ぶ
12	牛丼	D V Dで聞き取り、会話のニュアンスや文法を学ぶ
13	飲食共通	D V Dで聞き取り、会話のニュアンスや文法を学ぶ
14	飲食共通	D V Dで聞き取り、会話のニュアンスや文法を学ぶ
15	復習・検定対策	D V Dで聞き取り、会話のニュアンスや文法を学ぶ

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	インバウンド接客英会話Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	インバウンド接客英会話Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	リゾート観光ホテルエアライン科	2	30
使用教材	観光のための初級英単語と用例 みんなの外国語検定DVD		出版社	みんなの外国語検協会	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	基本的なコミュニケーション、実際のホテルやレストランやお店などで使うような英会話力を習得する				
到達目標	日常英会話、ホテル等で接客に必要な英会話話ができるようになる。 みんなの外国語検定ブロンズ以上合格				
評価基準	授業態度40% 検定合格30% 小テスト30%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>・成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格	みんなの外国語検定（英語）				
関連科目	TOEICテスト・観光英会話				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	藤田 隆子	実務経験	○		
実務内容	国際交流機関にて10年勤務経験あり。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	コンビニ	DVDで聞き取り、会話のニュアンスや文法を学ぶ
2	コンビニ	DVDで聞き取り、会話のニュアンスや文法を学ぶ
3	ドラッグ	DVDで聞き取り、会話のニュアンスや文法を学ぶ
4	ドラッグ	DVDで聞き取り、会話のニュアンスや文法を学ぶ
5	100円ショップ	DVDで聞き取り、会話のニュアンスや文法を学ぶ・小テストの実施。
6	100円ショップ	DVDで聞き取り、会話のニュアンスや文法を学ぶ
7	小売共通	DVDで聞き取り、会話のニュアンスや文法を学ぶ
8	小売共通	DVDで聞き取り、会話のニュアンスや文法を学ぶ

9	タクシー	D V Dで聞き取り、会話のニュアンスや文法を学ぶ
10	バス	D V Dで聞き取り、会話のニュアンスや文法を学ぶ・小テストの実施。
11	電車	D V Dで聞き取り、会話のニュアンスや文法を学ぶ
12	電車	D V Dで聞き取り、会話のニュアンスや文法を学ぶ
13	宿泊	D V Dで聞き取り、会話のニュアンスや文法を学ぶ
14	宿泊	D V Dで聞き取り、会話のニュアンスや文法を学ぶ
15	復習・検定対策	D V Dで聞き取り、会話のニュアンスや文法を学ぶ

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	インバウンド接客中国語Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	インバウンド接客中国語Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	リゾート観光ホテルエアライン科	2	30
使用教材	基礎からレッスン初めての中国語		出版社	アルク	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	中国語が好きになり、積極的にアウトプットが出来るようになる				
到達目標	中国語が好きになり、積極的にアウトプットが出来るようになる				
評価基準	小テスト・期末テスト:40% 提出物:30% 授業態度・出席:30%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>・成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格	みんなの外国語（中国語）検定				
関連科目	観光外国語				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	黄姜珍	実務経験		○	
実務内容	中国語講師				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標等について 授業の参加方法などの説明・中国（語）についての意識調査
2	ステップ1-第1～3課	中国語発音（声調・母音①単母音）
3	ステップ1-第5～6課	中国語発音（母音②複母音・鼻母音）
4	ステップ1-第4課	中国語発音（子音①唇音・舌尖音・舌根音）
5	ステップ1-第4課	中国語発音（子音②舌面音・そり舌音・舌歯音）
6	ステップ1-第7課	中国語発音（軽声・声調変化・発音表記について）
7	ステップ2-第1～5課	基本・初対面・別れ・再開のあいさつと返事のことば
8	ステップ2-第6～10課	食事のあいさつと感謝・おわび・お祝い・感情を表すことば

9	ステップ3-第1～6課	自己紹介・状態を伝える際に必要な表現
10	ステップ3-第7～12課	所有・存在の表現、疑問詞疑問文、時間詞の表現
11	ステップ3-第13～17課	能願動詞と好みを伝える表現
12	ステップ3-第18～22課	二重目的語、前置詞、進行表現、様態補語、丁寧な依頼“请”
13	ステップ3-第23～25課 ステップ4-第4,5課	完了、経験伝える表現、禁止表現 ホテルで使える単語・フレーズ
14	前期末試験	テストを実施する（筆記、聴解、会話）
15	課外学習（案）	実際に外へ出て中国の物、中国語にふれてみる

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	インバウンド接客中国語Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	インバウンド接客中国語Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	リゾート観光ホテルエアライン科	2	30
使用教材	基礎からレッスン初めての中国語		出版社	アルク	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	中国語が好きになり、積極的にアウトプットが出来るようになる				
到達目標	発音の基礎を学び、自信を持って検定に臨める能力を養う				
評価基準	小テスト・期末テスト:40% 提出物:30% 授業態度・出席:30%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>・成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格	みんなの外国語（中国語）検定				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	黄姜珍	実務経験		○	
実務内容	中国語講師				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標等について 目的意識の確認と最後に行う発表会について考えてもらう
2	復習・必要用語単語の学習	前期までの復習及び後期開催の試験に向けて必須の語彙やフレーズを学習する
3	特化テキスト第1課 部屋の予約接客	【ルームの予約を受ける時に必要な中国語を学ぶ】
4	特化テキスト第2課 チェックイン	【お客様がチェックインする際に必要な中国語を学ぶ】
5	特化テキスト第3課 客室係の接客	【お客様に部屋の案内をするのに必要な中国語を学ぶ】
6	中間テスト	テキスト第1～3課までの復習
7	特化テキスト第4課 ルームサービス	ルームサービスをする際に必要な中国語を学ぶ
8	特化テキスト第5課 要望・トラブル対応	客層を把握し、迅速に対応する為の中国語を学ぶ

9	特化テキスト第6課 チェックアウト	お客様がチェックアウトをする際に必要な中国語を学ぶ
10	期末テスト	テキスト第4～6課までの復習及び総まとめのテスト
11	試験対策	必要に応じて発表・試験のサポートを行う
12	試験対策	必要に応じて発表・試験のサポートを行う
13	試験対策	必要に応じて発表・試験のサポートを行う
14	課外授業②	実際に外へ出て中国の物、中国語にふれてみる
15	小発表会	中国に関して自身が興味を持った事をピックアップし、皆に発表する

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	観光ガイド演習		
必修選択	選択	(学則表記)	観光ガイド演習		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	リゾート観光ホテルエアライン科	1	30
使用教材	旅程管理研修 基礎 国内実務		出版社	JTB総合研究所	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	・旅程管理者としての基本を学びながら、国内・海外添乗の実務を学ぶ。				
到達目標	・ツアーコンダクター・ガイドとして活躍できるレベルへの到達				
評価基準	・テスト：50% 小テスト：20% 提出物・実地訓練：30%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	国内旅行業務取扱管理者・総合旅行業務取扱管理者・国内・総合旅程管理主任者				
関連科目	国内旅行業務取扱管理者Ⅰ 旅行業約款 国内旅行実務（国内運賃料金 国内観光資源・地理）				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	荒木 佐和子	実務経験		○	
実務内容	添乗員として7年の実務経験有(日本47都道府県・海外約30か国を訪れる)・大手旅行会社にて実務経験有				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション ツアーコンダクターの基本	授業のねらい・到達目標・成績評価について 旅行の種類と旅程管理の関係について理解する。
2	ツアーコンダクターの役割、 留意点	企画旅行が負う業務とツアーコンダクターの役割
3	ツアーの流れとツアーコンダクター の業務	日帰りツアーを例として、ツアーコンダクター業務の流れを理解する
4	ツアーの流れとツアーコンダクター の業務	宿泊ツアーを例として、ツアーコンダクター業務の流れを理解する
5	実務の練習・訓練	添乗業務に必要なトーク練習。自分らしさを踏まえた挨拶の練習
6	国内ツアーコンダクター基礎知識	宿泊・鉄道・航空の実務を理解する。
7	国内ツアーコンダクター基礎知識	貸切バス・観光・食事関係の実務を理解する。
8	実地研修	観光地におけるツアーコンダクター実務の実地研修（外）

9	テスト	国内ツアーコンダクター実務のテスト実施
10	海外ツアーコンダクター基礎知識	国内旅行と海外旅行の違いとツアーコンダクター業務の違いを理解する
11	海外ツアーコンダクター基礎知識	海外の基礎知識、（手配、宿泊、航空、鉄道、貸し切りバス）
12	海外ツアーコンダクター基礎知識	海外の基礎知識、（トランスファーとミーティングスタッフ、観光、食事）
13	海外ツアーコンダクター基礎知識	海外の基礎知識、（出入国手続き、外国語等）
14	海外ツアーの流れとツアーコンダクターの業務	海外ツアーを例として、ツアーコンダクター業務の流れを理解する
15	事故とトラブルへの対応 テスト	未然防止や処理・報告・保険関係について      テスト      まとめ

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	パソコン演習		
必修選択	選択	(学則表記)	パソコン演習		
開講					
年次	1年	学科	リゾート観光ホテルエアライン科	単位数	1
時間数	30				
使用教材	パソコン技能検定模擬問題集 3級 はじめてのPowerPoint 2019			出版社	株式会社ユアサポート

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	基本的な入力方法から書類作成など、情報処理・リテラシーを習得。 ホテル観光業界で必要なビジネスメールやプレゼンテーション技法を学ぶ。				
到達目標	社会人として必要とされる情報処理操作ができ、 スムーズに業務を進めることのできるテクニックを習得する。				
評価基準	テスト60%、課題提出20%、授業態度・参加の積極性20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者、成績評価が2以上の者				
関連資格	パソコン技能検定3級 ビジネスメール実務検定試験3級				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	井上 賢吾	実務経験	○		
実務内容	人材派遣会社での経験を活かし、東京みらいAI&IT専門学校にて社会人に必要とされるPowerPointを用いた資料の 作成、資料を用いたプレゼンテーションスキル向上を目的とした授業をカリキュラムから作成・実施。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション・PC基礎知識	授業の流れ、検定と到達目標についてPC基礎知識、タッチタイピング
2	Word活用・学科①	入力（文書の保存と読み込み、印刷、複写・削除・移動）/学科対策
3	Word活用・学科②	入力（入力の訂正、特殊な入力方法について）/学科対策
4	Excel応用・学科③	表計算（オートSUM、関数、四則演算について）/学科対策
5	Excel応用・学科④	表計算（グラフの作成、グラフの設定変更）/学科対策
6	Word応用・学科⑤	文書作成（表の作成・編集について）/学科対策
7	Word応用・学科⑥	文書作成（書式設定・配置）/学科対策（検定問題集のまとめ）
8	総合授業	まとめ（入力・学科・文書作成・表計算）

9	検定対策	確認テスト①(入力、学科、文書作成、表計算)
10	ビジネスメール導入	メールアドレスの登録、ビジネスメールを学ぶ意義、指定メール送信、BCCとCC
11	ビジネスメール演習	添付ファイルと圧縮 googleアプリとの連携
12	プレゼンテーション基礎	PowerPoint(基本操作・写真イラスト挿入)
13	プレゼンテーション応用	PowerPoint(アニメーション・音楽動画等マルチメディアの挿入)
14	検定対策	確認テスト②(ビジネスメール・プレゼンテーション)
15	総合授業	総まとめを行う
16	オリエンテーション・PC基礎知識	授業の流れ、検定と到達目標についてPC基礎知識、タッチタイピング
17	Word活用・学科①	入力(文書の保存と読み込み、印刷、複写・削除・移動)/学科対策
18	Word活用・学科②	入力(入力の訂正、特殊な入力方法について)/学科対策
19	Excel応用・学科③	表計算(オートSUM、関数、四則演算について)/学科対策
20	Excel応用・学科④	表計算(グラフの作成、グラフの設定変更)/学科対策
21	Word応用・学科⑤	文書作成(表の作成・編集について)/学科対策
22	Word応用・学科⑥	文書作成(書式設定・配置)/学科対策(検定問題集のまとめ)
23	総合授業	まとめ(入力・学科・文書作成・表計算)
24	検定対策	確認テスト①(入力、学科、文書作成、表計算)
25	ビジネスメール導入	メールアドレスの登録、ビジネスメールを学ぶ意義、指定メール送信、BCCとCC
26	ビジネスメール演習	添付ファイルと圧縮 googleアプリとの連携
27	プレゼンテーション基礎	PowerPoint(基本操作・写真イラスト挿入)
28	プレゼンテーション応用	PowerPoint(アニメーション・音楽動画等マルチメディアの挿入)
29	検定対策	確認テスト②(ビジネスメール・プレゼンテーション)
30	総合授業	総まとめを行う

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	就職対策Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	就職対策Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	リゾート観光ホテルエアライン科	1	15
使用教材	TAKEOFF		出版社		

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	就職内定に向けた就職指導だけでなく、働く意義や自身のキャリアプランを明確にし、卒業後に長く業界で活躍できる人材に必要な知識を習得する				
到達目標	社会で働くことについて理解をしている 自己分析を通じて自身をより深く理解している 業界の業種・職種を理解し、自身の目指すものが明確にできている インターンシップの重要性を理解し、インターンシップで学んだことを明文化し人に伝える力を養えている				
評価基準	発表：50% 提出物：30% 授業態度：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	キャリア指導Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	友利 まち子	実務経験		○	
実務内容	ウェディングプランナー歴5年				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	キャリア支援の実施内容説明し、就職活動において今後自分が何をするのかを知る
2	大人とは・・・ 働くということについて	就職するにあたり大人とはどんな人たちを指すのか、働くとはどのようなことなのかの説明とキャリアについて理解する
3	2年間の就職活動スケジュール	就職活動がすでに始まっているという自覚を持つ 夏休みのインターンシップの重要性を理解する
4	業種・職種の理解①	関連業界の業種・職種の分類を知り、必要な資質や資格について理解する 大手企業と中小企業での働き方や社会的価値について理解する
5	業種・職種の理解②	関連業界の業種・職種を具体的に調べ理解する
6	自己分析①	自己分析の重要性を理解する（強み、弱みを探すワーク）
7	自己分析②	自分の本当にやりたいこと、得意なこと、不得意なこと、絶対に譲れないもの等、自身の軸を確かなものにする
8	自己分析③	

9	自己理解・目標設定①	Rパート振り返り、目標見直し再設定
10	インターンシップ	企業型のインターンシップの重要性を理解し、前回の授業で調べた企業のインターン情報を調べる
11	企業研究①	企業研究を実施
12	企業研究②	リクナビ・マイナビ求人サイトの紹介
13	インターンシップ準備	インターンシップでの心構え、活動目標の設定 話の聞き方や、コミュニケーションにおける重要事項を知る
14	インターンシップ発表①	インターンシップ発表準備
15	インターンシップ発表②	インターンシップでの活動内容を発表する

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	就職対策Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	就職対策Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	リゾート観光ホテルエアライン科	1	15
使用教材	TAKEOFF		出版社		

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	就職内定に向けた就職指導だけでなく、働く意義や自身のキャリアプランを明確にし、卒業後に長く業界で活躍できる人材に必要な知識を習得する				
到達目標	社会で働くことについて理解をしている 自身のキャリアプランや強みを理解したうえで履歴書を作成することが出来る 面接対策を通じて、内定を獲得するためのノウハウ・実践力が身についている				
評価基準	提出物：50% 模擬面接：20% 授業態度：30%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	キャリア指導Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	友利 まち子	実務経験		○	
実務内容	ウェディングプランナー歴5年				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	キャリア教育 自己理解・目標設定②	目標見直し再設定
2	後期のキャリア教育について 自己分析の振り返り	就職活動の流れを再確認する 前期に行った内容を振り返り、再度自己分析を実施する
3	自己PR作成	自己PR作成を実施する
4	履歴書作成①	履歴書のWEB作成方法を理解し作成をする
5	履歴書作成②	履歴書の添削並びに企業がどのような視点を持ってきているのかを理解する
6	求人表の見方	給与や福利厚生や求人票から得られる基本情報の収集方法を知る
7	正しいスーツの着方	身だしなみ（女子のメイク含む）確認や就職時の必要物を確認する
8	説明会参加の仕方と留意事項	説明会の種類や企業見学の際の参加時の服装について 説明会時に人事がどこまでの範囲を見ているのかを理解する

9	WEBエントリー・登録	就職サイトに登録をし、興味のある、気になる企業にエントリー・登録する
10	企業への電話の仕方 メール作成方法	对企业とのやり取りの注意点を学ぶ 御礼状・御礼メールを通じて基本的なビジネスマナーを知る
11	志望動機作成①	志望動機の作成をする
12	志望動機作成②	履歴書作成のポイントを理解する PREP法を学ぶ
13	面接の対策①	面接における入退室（集団）と企業側の見ているPOINTについて理解する 頻出項目についての確認と返答のポイントを理解する
14	面接の対策②	模擬面接の実施
15	模擬面接の振り返り 自己理解・目標設定③・④	面接官からのフィードバックを元に振り返り、今後に活かすための具体的な行動を設定する 1年間の振り返り／目標見直し、再設定

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	ダイビング用具の知識		
必修選択	選択	(学則表記)	ダイビング用具の知識		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	リゾート観光ホテルエアライン科	2	30
使用教材	エンサイクロペディア・ナレッジワークブック		出版社	PADI	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	お客様に合った適切な器材を説明・紹介出来る知識を身につける。				
到達目標	ダイブマスター5教科のうち器材の合格をすることができる。				
評価基準	筆記テスト50%、プレゼンテーションテスト30%、授業態度20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	宮川 友宏 (株式会社マレアクリエイト)	実務経験	○		
実務内容	ダイビングショップ・インストラクターとして20年間の勤務 PADIオープンウォーター,PADIスクーバインストラクター,潜水士免許,PADIコースディレクター取得				

習熟状況等により授業展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	自己紹介・授業のねらい・達成目標
2	器材セッティング(OW)	器材セッティングの方法
3	マスク・スノーケル・フィン	マスク、スノーケル、フィンの種類、特徴
4	スーツ類・アクセサリ類	ウェットスーツの種類、保温性
5	BCDジャケット	BCDの種類、特徴、操作方法
6	シリンダー (タンク)	シリンダーの種類、特徴、刻印の意味
7	レギュレーター①	ファーストステージの特徴、違い

各回の展開		
回数	単元	内容
8	レギュレーター②	セカンドステージの特徴、違い
9	オクトバス・計器類	オクトバス、計器類の特徴、種類
10	ダイブコンピューター	ダイブコンピューターの種類、特徴
11	器材類について	メンテナンス方法
12	器材類について	運搬方法、保管方法
13	スーツの量・配置の違い	種類によっての浮力の違い
14	シリンダーの量・配置の違い	種類によっての浮力の違い
15	お客様に合った器材の説明	男性、女性、体型、使用者に合わせた器材説明

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	ダイビング物理・生理		
必修選択	選択	(学則表記)	ダイビング物理・生理		
開講			単位数	時間数	
年次	1年次	学科	リゾート観光ホテルエアライン科	2	30
使用教材	エンサイクロペディア		出版社	PADI	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	スクーバを使って水の中に潜ると人体がどのように機能するか理解する。 水中環境がもたらす変化に人体がどのように反応するかを理解する。				
到達目標	水中環境がダイバーにもたらす影響と人体の変化・反応について説明することができる。 ダイブマスター5教科のうち物理・生理の合格をすることができる。				
評価基準	筆記テスト50%、プレゼンテーションテスト30%、授業態度20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	宮川 友宏 (株式会社マレアクリエイト)	実務経験	○		
実務内容	ダイビングショップ・インストラクターとして20年間の勤務 PADIオープンウォーター,PADIスクーバインストラクター,潜水士免許,PADIコースディレクター取得				

習熟状況等によって授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	自己紹介・授業のねらい・達成目標・資格取得
2	水に関する基礎知識	ダイバーに与える影響
3	気体の基礎知識	アルキメデスの原理、必要な浮力、淡水と海水の計算
4	ボイルの法則・シャルルの法則	空気の体積、消費量の変化
5	ダルトンの法則・ヘンリーの法則	減圧モデルの応用性、減圧不要限界、減圧スケジュール
6	浮力・圧力について	プラス浮力、マイナス浮力、中性浮力
7	循環器系のトラブル	循環器系のトラブル、対策、対処法

各回の展開		
回数	単元	内容
8	呼吸器系のトラブル	呼吸器系のトラブル、対策、対処法
9	温度変化への生理的反応	熱疲労、熱射病、低体温症、体温低下
10	耳とサイナス	耳とサイナスへのスクイズ、圧平衡の方法
11	体内空間のトラブル	浮上中の圧外傷、潜降中の圧外傷
12	肺の過膨張障害	肺過膨張障害の予防と対策、処置の方法
13	減圧症	減圧症の予防と対策、処置の方法
14	水中でおこりうる障害について	纏める：水中でおこりうる様々な障害
15	水中でおこりうる障害について	発表：水中でおこりうる様々な障害

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	潜水士		
必修選択	選択	(学則表記)	潜水士		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	リゾート観光ホテルエアライン科	2	30
使用教材	潜水士テキスト 潜水士試験問題集－模範解答と解説〈120題〉－		出版社	中央労働災害防止協会	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	潜水士国家試験にむけて合格に必要な知識を身につける。				
到達目標	潜水士国家試験に合格をすることができる。				
評価基準	筆記テスト50%、小テスト30%、授業態度20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	潜水士				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	宮川 友宏 (株式会社マレアクリエイト)	実務経験	○		
実務内容	ダイビングショップ・インストラクターとして20年間の勤務 PADIオープンウォーター,PADIスクーバインストラクター,潜水士免許,PADIコースディレクター取得				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	潜水業務の概要	潜水業務の定義・歴史・潜水作業の概要・圧力・気体の法則
2	潜水の物理学	気体の特性・浮力・潜水に関する気体の性質 水中での光の伝播・音の伝播・熱の伝播
3	潜水の種類スクーバ式潜水	潜水器の種類による分類・呼吸用ガスによる分類・潜水業務の管理・必要な設備・器具取り扱い・点検整備
4	全面マスク式潜水ヘルメット式潜水	必要な設備・器具・器具の取り扱い・器具の点検整備
5	混合ガス潜水方式飽和潜水	潜水の方法・必要な設備・機材・混合ガス・酸素減圧・等圧気泡形成・飽和潜水の方法・特徴
6	潜水業務の計画と管理	潜水業務の危険性・潜水業務を行う水域による危険性
7	潜水業務の危険性	代表的な潜水事故とその予防法・緊急の連絡体制の確立

各回の展開		
回数	単元	内容
8	潜水業務に必要な給気	空気潜水における給気および送気・混合ガス潜水における給気および送気・潜降・浮上
9	適正な浮上（減圧）速度の制定	減圧計算を理解する・高所潜水・再圧室を用いて酸素減圧をする場合
10	個別の潜水状況への対応	緊急時の場合・減圧表を使用する場合の留意事項・減圧表の限界
11	人のからだ	循環・呼吸器・神経系・医学面よりみた潜水の特徴・圧力が関係する疾患・呼吸に関する疾患温度の影響
12	潜水者の健康管理	健康診断・病者の就業禁止・個人の健康管理
13	潜水業務に必要な救急処置	一次救命処置・再圧治療
14	関係法令	法令の構成・高気圧作業に関連する労働安全衛生法の構成・法令条文の読み方・本文中の略語労働安全衛生法
15	関係法令	労働安全衛生規則・高気圧作業安全衛生規則・罰則

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	ダイビング理論Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	ダイビング理論Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	リゾート観光ホテルエアライン科	2	30
使用教材	OWDマニュアル、AOWマニュアル、EFRマニュアル REDマニュアル		出版社	PADI	

## 基礎情報②の補足

授業のねらい	OWD、AOW、レスキューダイバーの必要な知識を身につける。				
到達目標	コース修了に必要なナレッジレビューの解答、解説することが出来る。 ファイナルエグザム終了することが出来る。				
評価基準	筆記テスト50%、課題提出30%、授業態度20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	ダイビング理論Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	宮川 友宏 (株式会社マレアクリエイト)	実務経験	○		
実務内容	ダイビングショップ・インストラクターとして20年間の勤務 PADIオープンウォーター、PADIスクーパインストラクター、潜水士免許、PADIコースディレクター取得				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	自己紹介・授業のねらい・達成目標・資格取得の流れ
2	OWDナレッジレビュー1章・2章	ナレッジレビューの解答、解説、復習
3	OWDナレッジレビュー3章・4章	ナレッジレビューの解答、解説、復習
4	OWDナレッジレビュー5章・RDPテーブル	ナレッジレビューの解答、解説、復習
5	OWD ファイナルエグザム	ファイナルエグザムの解答、解説、復習
6	AOW ナレッジレビュー	PPBナレッジレビューの解答、解説、復習
7	AOW ナレッジレビュー	BDS、FIDナレッジレビューの解答、解説、復習

各回の展開		
回数	単元	内容
8	AOW ナレッジレビュー	UNS、SRSナレッジレビューの解答、解説、復習
9	AOW ナレッジレビュー	NDS、DDSナレッジレビューの解答、解説、復習
10	EFR 1次ケアと2次ケア	ABC-ABSと救急処置の実施方法の解説
11	EFR ナレッジレビュー	ナレッジレビューの解答、解説、復習
12	REDナレッジレビュー1章	ナレッジレビューの解答、解説、復習
13	REDナレッジレビュー2章	ナレッジレビューの解答、解説、復習
14	REDナレッジレビュー3章	ナレッジレビューの解答、解説、復習
15	REDナレッジレビュー4章	ナレッジレビューの解答、解説、復習

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	ダイビング理論Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	ダイビング理論Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	リゾート観光ホテルエアライン科	2	30
使用教材	エンサイクロペディア、ナレッジワークブック		出版社	PADI	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	AOW、RED、ダイブマスターに向けてダイビング理論知識を身につける。				
到達目標	ダイブマスター5科目のうちRDPとスキルと環境の合格をすることができる。				
評価基準	筆記テスト50%、小テスト30%、授業態度20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	ダイビング理論Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	宮川 友宏 (株式会社マレアクリエイト)	実務経験	○		
実務内容	ダイビングショップ・インストラクターとして20年間の勤務 PADIオープンウォーター、PADIスクーパインストラクター、潜水士免許、PADIコースディレクター取得				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	自己紹介・授業のねらい・達成目標・資格取得の流れ
2	REDナレッジレビュー5章	ナレッジレビューの解答、解説、復習
3	REDファイナルエグザム	ファイナルエグザムの解答、解説、復習
4	スキルと環境	主な海流の循環の性質
5	スキルと環境	水中環境、ダイバーの出来ること
6	ダイブマスターの役割と資質	プロフェッショナリズム、ダイブマスターの責任
7	認定ダイバーのダイビング活動の監督 1・2	ダイブプランニング ダイバーの行動

各回の展開		
回数	単元	内容
8	認定ダイバーのダイビング活動の監督 3・4	コンディションの評価 ダイビング時、責任ある行動
9	認定ダイバーのダイビング活動の監督 5・6	ダイビングのストレス 適切な監督位置
10	認定ダイバーのダイビング活動の監督7	緊急時の対応
11	認定ダイバーのダイビング活動の監督8	ブリーフィング内容
12	認定ダイバーのダイビング活動の監督9	トラブル管理
13	トレーニング中の生徒ダイバーのアシ スト1・2	アシスタントの役割 コントロール・監督・運営
14	トレーニング中の生徒ダイバーのアシ スト3・4・5	スキルのデモンストレーション トラブル解決・トラブル中の生徒ダイバーのアシスト
15	ファイナルエグザム	筆記テストの回答・解説・復習

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	スクーバダイビング実習Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	スクーバダイビング実習Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	リゾート観光ホテルエアライン科	4	120
使用教材	なし		出版社	なし	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	授業で学んだ知識や技術をアウトプットし、実践力を養うとともに、現場・社会に触れることで、求められる人物像やスキル、社会を学ぶ。				
到達目標	実習先で求められるものに応える過程で自身の強みや課題を理解することができる。 課題を自ら見つけ、チャレンジを通して克服することができる。 組織の一員として現場で求められるスキルを理解することができる。				
評価基準	実習評価：50% ・ 学校評価：50% (実習手帳評価)				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	※評価基準は学外実習規定に準ずる 原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	宮川 友宏 (株式会社マレアクリエイト)	実務経験	○		
実務内容	ダイビングショップ・インストラクターとして20年間の勤務 PADIオープンウォーター、PADIスクーバインストラクター、潜水士免許、PADIコースディレクター取得				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	C/W ①②③	C/W ①②③の項目を実施。順番は基準内で各インストラクター判断とする。
2	C/W ④⑤+水中能力評価	C/W ④⑤+水中能力評価を実施。順番は基準内で各インストラクター判断とする。
3	O/W ①②	O/W ①②を実施する。順番は基準内で各インストラクター判断とする。
4	O/W ③④	O/W ③④を実施する。順番は基準内で各インストラクター判断とする。
5	ビーチクリーンアップ	ビーチのクリーンアップの重要性を伝達し実施する。
6	Fun Dive	O/Wのオプションダイビングを実施。
7	PPB ①・ナビゲーション①	AOWの項目を実施。海況によりコースの順番を入れ替えることも可能とする。
8	ボート①・魚の見分け方①	AOWの項目を実施。海況によりコースの順番を入れ替えることも可能とする。

各回の展開		
回数	単元	内容
9	ディープ①・ナイト①	AOWの項目を実施。海況によりコースの順番を入れ替えることも可能とする。
10	EFR①②	EFRの実技を実施。
11	RED C/W①②③④⑤⑥	RED C/W①②③④⑤⑥を基準に従い実施。各ケースに合わせたレスキューを身に着ける。
12	RED C/W⑦⑧⑨⑩	RED C/W⑦⑧⑨⑩を基準に従い実施。各ケースに合わせたレスキューを身に着ける。
13	サーチ&リカバリー①②③④	各種ロープワーク、引き揚げ方を実施。
14	酸素プロバイダー	酸素プロバイダーコースを実施。終了後、申請をする。
15	レスキュー海洋シナリオ	各チームに分かれ海洋シナリオを実施。実際の事故現場を想定し、基準を満たすこと。

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	国内地理		
必修選択	選択	(学則表記)	国内地理		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	リゾート観光ホテルエアライン科	2	30
使用教材	国内観光資源		出版社	JTB総合研究所	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	国内観光地理および資源における必要な知識について学ぶ。				
到達目標	国家試験・国内旅行業務取扱管理者試験の合格を目指す				
評価基準	テスト：50% 小テスト：30% 検定試験：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	総合旅行業務取扱管理者				
関連科目	国内旅行業務取扱管理者Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	相澤 和人	実務経験		○	
実務内容	旅行業・観光業歴30年以上、沖縄観光まちづくり歴15年以上				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、日本の地理における一般常識、到達目標について
2	北海道・北東北	各県の温泉・自然景観・観光資源について学ぶ。
3	南東北	各県の温泉・自然景観・観光資源について学ぶ。
4	関東	各県の温泉・自然景観・観光資源について学ぶ。
5	北陸	各県の温泉・自然景観・観光資源について学ぶ。
6	中部	各県の温泉・自然景観・観光資源について学ぶ。
7	関西の知識	各県の温泉・自然景観・観光資源について学ぶ。
8	中国地方の知識	各県の温泉・自然景観・観光資源について学ぶ。

9	四国の知識	各県の温泉・自然景観・観光資源について学ぶ。
10	北九州の知識	各県の温泉・自然景観・観光資源について学ぶ。
11	南九州・沖縄の知識	各県の温泉・自然景観・観光資源について学ぶ。
12	全国の観光資源のまとめテスト	日本全国における観光資源の総合テスト
13	国立公園・世界遺産	区域の概要、観光資源について学ぶ。
14	国家試験 最終対策	過去の試験問題等による総合テスト
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	ホテル実務基礎実習		
必修選択	選択	(学則表記)	ホテル実務基礎実習		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	リゾート観光ホテルエアライン科	2	30
使用教材	ホテル・マネジメント概論		出版社	一般社団法人日本宿泊産業 マネジメント技能協会	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	ホテルの基礎知識を身に付け、マネジメントの観点からホテルを理解する				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテル業界の基礎知識を身に付行ける</li> <li>・ホテル業務について実習を通して体得する</li> <li>・マネジメントの観点からホテルを理解する</li> </ul>				
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆記テスト30%</li> <li>・実技テスト30%</li> <li>・小テスト20%</li> <li>・授業態度・提出物20%</li> </ul>				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>・成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格					
関連科目	ホテルマネジメントA、ホテルマネジメントB				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	宮城 正樹	実務経験		○	
実務内容	県内ホテルにて支配人として勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 日本の宿泊産業の現状	授業の進め方と検定概要 日本の宿泊産業の現状と課題を理解する
2	ホテルの種類	日系と外資系の特徴
3	ホテルの種類	シティホテル・リゾートホテル・テーマパークホテル等様々なホテルのタイプがあることを知る
4	ホテル施設	ホテル施設の理解
5	ホテル評価	ホテル評価「星」についての理解
6	ホテルと旅館	ホテルと旅館の違いと特徴の理解
7	ベル業務実習	基本的なベル業務について学ぶ
8		

9		
10	フロント業務実習	基本的なフロント業務について学ぶ
11	客室業務実習	基本的な客室業務について学ぶ
12	定期テスト	テストの実施
13	業務運営管理 1	全ての職種に共通する能力を理解する
14	業務運営管理 2 - 1	宿泊職種の業務と要求される能力の理解
15	業務運営管理 2 - 2	料飲職種の業務と要求される能力の理解

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	レストランサービス検定対策Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	レストランサービス検定対策Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	リゾート観光ホテルエアライン科	2	30
使用教材	西洋料理料飲接客サービス技法 レストランサービス技能検定 学科試験合格をめざして		出版社	一般財団法人 職業訓練教材研究会	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	国家検定試験受験に向けて、レストランにおける料飲ならびにサービスマナーに関する基本的な知識を習得する				
到達目標	国家検定 レストランサービス技能士3級 学科試験合格				
評価基準	授業態度20% 各章のまとめ20%×4回				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>・成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格	国家検定 レストランサービス技能士3級				
関連科目	レストランサービス検定対策Ⅱ レストランサービス演習Ⅰ・Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	宮城 正樹	実務経験	○		
実務内容	県内ホテルにて支配人として勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 食材・飲料等の基礎知識1	授業の流れ、到達目標について
2		食品の分類別特徴、 食品の管理、西洋料理に使用される主な食材について
3	食材・飲料等の基礎知識2	西洋料理に使用される主な食材について
4		
5	食材・飲料等の基礎知識3	一般的な西洋料理調理法等について
6		
7	まとめ	演習問題を実施する
8		

9	料飲概論	アルコール飲料について
10		
11	食材・飲料等の基礎知識4	ワインの知識、その他の飲料について
12		
13	食材・飲料等の基礎知識5	メニュー構成について
14		
15	まとめ	演習問題を実施する
16		
17	食材・飲料等の基礎知識 6	食器類について 料飲サービススタッフの役割と求められる資質について
18		
19	宴会とレストランサービス1	料理と飲み物のサービスについて
20		
21	まとめ	演習問題を実施する
22		
23	宴会とレストランサービス2	レストランにおける接遇について
24		
25	宴会とレストランサービス3	ワゴンサービスについて
26		
27	宴会とレストランサービス4	一般的な救護方法ならびに食事のサービスマナーについて
28		
29	総まとめ	総まとめの演習問題を実施する
30		

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	レストランサービス演習Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	レストランサービス演習Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	リゾート観光ホテルエアライン科	2	30
使用教材	基礎からわかるレストランサービススタンダードマニュアル		出版社	一般財団法人 職業訓練教材研究会	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	国家検定試験受験に向けて、レストランにおける料飲ならびにサービスマナーに関する基本的な知識を習得する				
到達目標	国家検定レストランサービス技能士3級 実技試験合格を目標として、ホテルサービスの基本知識と技術をもった人材になる				
評価基準	小テスト20%×2 まとめ実践（グループ評価）40% 授業態度20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>・成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格	国家検定 レストランサービス技能士3級				
関連科目	レストランサービス検定対策Ⅰ・Ⅱ レストランサービス演習Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	宮城 正樹	実務経験		○	
実務内容	県内ホテルにて支配人として勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 基本動作	授業の流れ 到達目標について 立ち居振る舞いの実践をする
2	接客用語 サービストレイ の扱い1	接客用語について トレイの扱いを実践する
3	什器備品の知識1 サービストレイの扱い方2	シルバーウェアの名称と用途について トレイサービスを実践する
4	まとめ	学んだことを実践する
5	什器備品の知識2 リネングッズの扱い	グラスとリネン類の名称と用途について ナプキンホールドとクロス掛けを実践する
6	テーブルセッティング1	朝食と昼食のセッティングについて 朝食と昼食のセッティングを実践する
7	テーブルセッティング2	フランス料理フルコースについて フルコースのセッティングを実践する
8	プレートサービス1	料理皿の扱いを実践する

9	まとめ	学んだことを実践する
10	水とワインのサービス	水・ワインの注ぎ方を実践する
11	グループワーク1	お迎えからお見送りまでの一連の作業をチームで行う
12	グループワーク2	お迎えからお見送りまでの一連の作業をチームで行う
13	グループワーク3	お迎えからお見送りまでの一連の作業をチームで行う
14	まとめ	学んだことを実践する
15	総まとめ	振り返りと総まとめを行う

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	エアライン業界総合Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	エアライン業界総合Ⅰ		
		開講	単位数	時間数	
年次	1年	学科	リゾート観光ホテルエアライン科	2	30
使用教材	エアライン・ビジネス入門 第2版 講師作成資料		出版社	晃洋書房	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	エアライン業界の基礎知識および空港旅客業務の業務内容と基礎知識を習得する				
到達目標	エアライン業界の歴史と現状及び航空各社の経営戦略について理解することができる。 航空業界用語および日本の主要空港と航空会社の2レター、3レターを理解し、覚えている。 空港旅客業務の内容を理解し、説明する事が出来る				
評価基準	テスト：30% 小テスト：20% 提出物：20% (意欲・態度 30%)				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>・成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格	無				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	幸喜 若菜	実務経験	○		
実務内容	航空会社CAとして勤務経験。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について グランドスタッフの業務内容について考える
2	航空会社事業論	航空会社の関連事業（航空直結事業関連会社と周辺事業会社）について学ぶ 旅客ハンドリング会社について学ぶ
3	空港業務と旅客ハンドリング①	グランドスタッフに求められる人材像について考える グランドスタッフの業務内容について詳しく学ぶ
4	空港業務と旅客ハンドリング①	ステーション・オペレーションとグランドハンドリングについて学ぶ
5	エアライン・ビジネスとは	エアライン・ビジネスの特徴、特性について学ぶ
6	エアライン・ビジネスの歴史①	航空行政の歴史を知りさまざまな観点から学ぶ
7	エアライン・ビジネスの歴史②	日本の民間航空の歴史について学ぶ

8	日本の空港①	空港の種類と数、位置づけを理解する 日本の主要な空港と空港3レターについて学ぶ
9	日本の空港②	空港の機能と施設・設備について学ぶ 空港の課題とこれからの空港について学ぶ
10	日本のエアラインとLCC	日本の主要な航空会社と航空会社の2レター3レターについて学ぶ LCCの概要と日本のLCCについて学ぶ
11	航空業界用語	旅客ハンドリング用語と略語、アルファベットの読み方を学ぶ
12	航空機メーカーと機種①	航空機のメーカーと機種について学ぶ
13	航空機メーカーと機種②	航空機のメーカーと機種について学ぶ
14	テスト	テストを実施する
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	JR運賃計算		
必修選択	選択	(学則表記)	JR運賃計算		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	リゾート観光ホテルエアライン科	3	45
使用教材	国内運賃・料金 科目別速習問題集		出版社		

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	JRをはじめとする各種交通機関の運賃料金、宿泊料金を理解する				
到達目標	国内旅行業務取扱管理者合格を目指す				
評価基準	検定試験：30% 模擬試験：30% 小テスト：20% 提出物：20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>・成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格	国内旅行業務取扱管理者Ⅰ				
関連科目	旅行業約款・国内地理				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	相澤 和人	実務経験		○	
実務内容	旅行業・観光業歴30年以上、沖縄観光まちづくり歴15年以上				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 第一部 旅客鉄道会社 (JR)	授業のねらい・到達目標・成績評価について説明 第一章 旅客営業規則の概要等/第二章 乗車券類発売概要(年齢区分まで)
2	第一部 旅客鉄道会社 (JR)	乗車類販売概要(乗車券類の発売)/第三章 運賃(普通乗車券の効力まで)
3	第一部 旅客鉄道会社 (JR)	第三章 運賃(個人割引・団体割引)
4	第一部 旅客鉄道会社 (JR)	運賃チェックテスト実施/第四章 料金
5	第一部 旅客鉄道会社 (JR)	第四章 料金(新幹線内乗継まで)
6	第一部 旅客鉄道会社 (JR)	第四章 料金(乗継割引)
7	第一部 旅客鉄道会社 (JR)	第四章 料金(乗継割引/北陸新幹線の取り扱い/東海道・山陽・九州新幹線の取り扱い等)
8	第一部 旅客鉄道会社 (JR)	第五章 変更・取消し・払戻し

9	第二部 航空	第一章 航空券販売の概要/第二章 運賃・料金/変更・取り消し・払い戻し等
10	第二部 航空	JR・国内航空 総まとめ
11	第三部 貸切バス・フェリー	貸切バスの運賃・料金等/フェリーの運賃料金等
12	第四部 宿泊	宿泊の概要/宿泊料金等/変更・取り消し・払い戻し
13	総合まとめ	過去問を解く
14	総合まとめ	過去問を解く
15	総合まとめ	過去問を解く

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	サービス介助士			
必修選択	選択	(学則表記)	サービス介助士			
開講					単位数	時間数
年次	1年	学科	リゾート観光ホテルエアライン科	2	30	
使用教材	サービス介助士資格取得講座テキスト		出版社	日本ケアフィット 共育機構		

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	グランドスタッフとして必要なおもてなしの心と介護技術を学ぶ 日系航空会社で資格取得に取り組んでいる「サービス介助士」の資格取得を目指す				
到達目標	ご高齢の客様や介助の必要お客様に対して自信をもって接客できる 個々のお客様に合った接客サービスを考え提供することが出来る サービス介助士資格の取得				
評価基準	定期試験 40% 授業態度 30% 小テスト 30%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>・成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格	サービス介助士				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	與那嶺 佳吾	実務経験		○	
実務内容	県内にて児童デイサービスの運営、介護経験あり				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 障がい者差別解消法	サービス介助論について、サービス介助士の必要性 超高齢化社会の現状 障がい者差別解消法について
2	ホスピタリティ・マインド	ホスピタリティの語源とホスピタリティについて ホスピタリティ体験についてディスカッション
3	ノーマライゼーション	ノーマライゼーションについて 障がいの種類について 事前課題の取り組み
4	高齢者の理解と介助	高齢者の身体的特徴やかかりやすい病気・特徴的な病気 事前課題の取り組み
5	ジェントロジー	ジェントロジーとは 将来について考察 事前課題への取り組み
6	接遇	サービス介助士としての接遇 事前課題の取り組み
7	障がい者への理解と介助 (車いす使用者)	車椅子使用者への理解と介助方法 車いすの種類と操作上の注意点 事前課題への取り組み
8	障がい者への理解と介助 (視覚障がい者)	視覚障がい者への理解と誘導方法 点字や指文字 事前課題への取り組み

9	障がい者への理解と介助 (聴覚障がい者)	聴覚障がい者への理解 聴覚障がい者とのコミュニケーション方法 事前課題への取り組み
10	障がい者への理解と介助 (知的障がい者・精神障がい者)	知的障がい・精神障害の定義と概要 知的障がい者・精神障がい者への介助方法 事前課題への取り組み
11	身体障がい者補助犬	身体障がい者補助犬についての理解と身体障がい者補助犬法 身体障がい者補助犬使用者への介助方法 事前課題への取り組み
12	ユニバーサルデザイン	バリアフリーデザインとユニバーサルデザイン 身の回りにあるユニバーサルデザイン 事前課題への取り組み
13	試験	テストを実施
14	事前課題学習	事前課題の返却と復習 定期テストの返却・解答解説 事前課題の復讐を兼ねた小テスト
15	総括	総括 実技講習に向けて

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	インターンシップⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	インターンシップⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	リゾート観光ホテルエアライン科	2	60
使用教材	なし		出版社	なし	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	授業で学んだ知識や技術をアウトプットし、実践力を養うとともに、現場・社会に触れることで、求められる人物像やスキル、社会を学ぶ				
到達目標	実習先で求められるものに応える過程で自身の強みや課題を理解することができる 課題を自ら見つけ、チャレンジを通して克服することができる 組織の一員として現場で求められるスキルを理解することができる				
評価基準	実習評価：50% 学校評価：50% (実習手帳評価)				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	※評価基準は学外実習規定に準ずる				
担当教員	友利 まち子	実務経験		○	
実務内容	ウェディングプランナー歴5年				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	企業研究	希望職種、過去実績を基に実習企業を調べる
2	実習先の決定	企業側の承諾をもって決定
3	事前ガイダンス	実習活動中の留意点の確認、実習手帳の使用についての説明 企業、実習生間により事前打合せの指示
4	実習	1日の実習時間の最大は8時間(休憩時間を含めず)とし、原則22時まで